

02 大学等入学後の配慮

高校と大学等との学び方の違い

	時間割	授業時間	人数	授業進行	評価方法
高校	決められている	50分～60分	30人前後	教科書中心	テスト・出席日数
大学等	自身で選択・登録することが多い	90分程度	数人～100人程度	講義中心（実習等が必須の場合もあり）	テスト・レポート・出席日数
困ること	履修登録が出来ない・漏れがある	集中が続かない	人数が多くて集中できない	授業によって進み方が異なり、混乱しやすい	時間内・期日内にレポートが書けない・休みがちになる

学内での配慮事項について

履修登録の仕方の理解に関する困難さについて

（独立行政法人 日本学生支援機構「履修登録の仕方の理解に関する困難」HP 参照）

入学後に発達障害のある学生が最初につまずく可能性の高い場面として、授業の履修登録が挙げられます。大学では自分が履修する授業を自ら決定して登録していかなければなりません。その際には必修科目、選択科目、選択必修科目別に単位数の上限を考えながら受講する授業を選択していくという作業を行う必要があります。

発達障害のある学生の中には、こうした規則を上手く理解できないまま履修登録を行ってしまい、後になって必修単位の不足などの問題が生じたり、空き時間を作らずに授業時間割を詰めてしまい、授業参加が大変になるなど、スケジュール管理が難しい等の問題が生じる場合があります。

また、自分が抱える困難さや苦手さを克服しようとして、あえて自分の苦手とする内容の授業を選ぼうとする場合もあり、こうした授業選択をした学生の多くは、授業開始後に極めて高いストレスにさらされ、授業に出席できずに単位を落としてしまうだけでなく、他の授業にも悪影響が出てしまう可能性があります。

支援例：

- ・ 履修の登録に対する相談や補助
- ・ 講義内容の録音許可
- ・ 授業内容を PDF ファイルで送付
- ・ 本人の状況に応じて試験時間・レポート提出日を延長する 等

申請にあたって気をつけておきたい事

入学時に提出する書類の中に、障害等配慮事項を記入する欄があれば記入しておく、入学後スムーズに配慮が受けやすくなるでしょう。医師の診断書や知能検査の結果などの書類が必要になる場合もあります。

学校により窓口となる支援機関の名称は異なりますので、詳細については各大学に問い合わせしてください。

学内での配慮については、本人からの申請後、教員と連携して（学内で会議が開かれるなど、一定の手続きが行われた後）支援内容を決定し実施されます。

学校内での相談先

※名称は各学校によって異なります

■障害学生支援室、学務課など：

障害のある学生に対して支援を行います。

- ・ 履修に関しての相談、学修上の配慮申請など受付
- ・ 学部学科や授業担当教員、関係部署との連携等を行っています。

■学生相談室：

障害の有無にかかわらず、学生生活全般の悩みごとに関して相談を受け付けます。資格を持ったカウンセラー、教員等が対応します。

■保健管理センター：

障害の有無にかかわらず、学生の健康に関する支援を行います。

「保健室のような場所」と考えるとイメージしやすいです。学校によっては保健師・看護師が常駐していたり、嘱託医が時々診察してくれるところもあります。

体験談

学校生活編



特に配慮をお願いせずに、専門学校に入学しました。コミュニケーションが苦手なことなどを自己紹介で言ったところ、話しかけやすい友人の紹介などの配慮をしてくれました。困っていることがないかなど、担任からよく声をかけられたそうです。(家族)



「聞き取るのが苦手なので履修の説明が一番前で聞きたい」と事前に配慮をお願いしていたのに、当日は他の学生が占領してしまって後ろの方でしか聞けなかった。具合も悪くなったので保健管理センターの先生に話したらその後個別で履修相談ができるように配慮してくれた。(本人の話を改変)



いろいろな手続きを本人名義ですることが多く、特に、奨学金の手続きには苦労しました。何度も事務室に行き、不備のチェックなど手続きに時間がかかったので、2年目からは早めの声掛けや、職員の方に時間を作っていただいたり等、お願いしました。(家族)



県外の大学に進学しました。転居にあたり、これまでお世話になってきた主治医からは自立支援医療と手帳の取得、進学先での転院を勧められました。全く不案内な土地ではありましたが、合格後つながることができた大学の保健センターの障がい学生支援担当のカウンセラーさんからご紹介していただいたり、自分たちでWebで探すなどして無事転院することができました。

大学独自の医療費助成制度を利用できることから自立医療支援(48ページ参照)は見合わせており、手帳の取得については検討中です。

親子で不安に思っていた履修登録も大学の学生さんによる履修相談会やカウンセラーさんにご相談しながら無事手続きできました。カウンセラーさんに定期的にご相談にのっていただきながら大学生活を送っています。(家族)



中学高校の系列の大学だったので、高校3年の担任から大学へ申し送りがありました。入学早々にスクールカウンセラーの面談を受けることができました。その後はカウンセラーよりも学務課の職員の方がよく声をかけてくださり、私とも連絡をとってくださって、履修届、単位の取得等の面倒をみてくださった感じです。

1、2年のころは困ったことがあると相談に行って一緒に解決してもらっていました。レポートの期限を延長していただいたり、教授と話す必要があるときには段取りをつけていただいたりしました。教科によっては学習支援をしていただけたところに空き時間に行ったりもしていました。ほんとに苦労したと思います。また、コロナ渦ではレポートの提出が多く、先生によって提出の仕方も支援の仕方も大きく違うので天手古舞だったと思います。自分で「支援学生ですが、、、」と先生にメールを送ることもありました。しかし、3年になるとなんとか今まで支援していただいたことを自分で活用して、先生に自分から声をかけて確認をとったり、卒論でも担当教授と相談しながらなんとなくやれるようになっていました。

理系なので実験をするために被験者を集めることやその研究成果を先生たちの前で発表することは本人にとってとても大変だったと思いますが、ゼミの友人と四苦八苦しながらやり遂げたようです。

私たち両親も大学に2度ほど伺って指導の先生と卒論の先生にお会いしました。特に何かあったわけではないですが、たくさんいる学生の中で、私たちが行くことで、本人を印象付けて覚えていただくって感じだったと思います。効果があったかどうかはわかりません(笑)ただいつも支援をしてくださる学務課の方やキャリア支援課の方とお会いできたのはよかったと思います。大学では、保護者ができることはほとんどなく、本人が自分で何に困っているかわかって自分で相談できることが必要になるようです。診断書を提出した記憶はないので、まずは、自分はこういうことで困っていると言えることが必要で、さらにこうしてもらえると助かると言える支援が受けられると感じました。(家族)

体験談

日常生活編



学割が使えるうちにと、高校卒業前に自動車学校に通いましたが、混んでいてスケジュールに余裕がなく、マイペースな子にはつらかったようですが、頑張りました。申し込み時の視力検査では、メガネの視力不足で、入校までにメガネを作り直すように言われ、慌てました。送迎バスがあり、最初は自宅付近での送迎を希望していましたが、他自動車学校の送迎バスと乗り場や時間が同じ時もあり、乗り間違いや予約したのに迎えがなかったなどのトラブルがあったので、最寄り駅送迎に変え、またトラブルがあった時に対応しやすくしました。(家族)



知り合いの人が『面倒見がいいよ』と教えてくれた自動車学校に大学1年の春休みに行くことにした。特にこれまで特別な支援を受けることなく何とかやってこれていたこと、本人希望により特性については触れなかった。けれど結果は自動車学校通学中2回中断というか行かなくなっていた。自動車学校の話を知ると、何だか歯切れの悪い返答。自動車学校に問い合わせ『しばらく来ていませんよ。』とわかる。本人は、『人をひいちゃうかもで怖い。』『心の準備のため、2年の夏休みに通いたかったのにお母さんが春休みに決めちゃったから。』との言い分。学校に特性伝えてからは、学科を含め個別に取得までのプランを立ててもらい、必要な連絡は個別にもらうことができ、ギリギリで取得できた。心の準備の大切さを母は学ぶ。(家族)



アルバイトの求人サイトは見れるし、求人誌ももらってることができる。けど、多すぎる情報から適切な求人を選択するのが難しいようで、『アルバイトやるよ！やるよ！』といいつつ、日々過ぎていった。(家族)



母が『アルバイトは就職活動の面接時にも応募書類にもPRできるからやった方がいい。』と助言すると、何を勘違いしたのか、大学の専攻に関連するバイト先をチョイス。本人に詳しく聞いてみると、自転車で40分かかるところだったり。母は思う、そもそもそんな遠い人雇わないよ！(家族)



少し体を動かす資格取得の実技試験の当日、息子がコンビニ前で実技の練習をしていたらしい。知らないおじさんから『何をやっている？』と質問され愛想よく説明したとのこと。『僕は自分から話しかけるのは苦手だけど、話しかけてくれる人には、基本愛想よく答えるんだよ。』と言っていた。小学校時代の担任が言っていた『君はひとりで居るのは好きだけど、人嫌いじゃない。』は的を得ている。(家族)



長年貯めたお年玉をNISA資金にするため、金融機関へ一緒に行った。出金時、『NISAにご興味ありますか？』『もう、金融機関決められました？』との質問に『興味はあります。これから金融機関は決めます。』と返していた。今日まさにその手続きで別の金融機関に行くことが決まっていたので、『なんで決めているって答えなかったの？』と私が尋ねると『あの人の立場もあるし、ああいう時は茶を濁すのが1番。』とのこと。まさに神対応！(家族)



施設にいた父の面会を、わたしが怠けずに行けたのは子どものおかげ。いつも『今月はまだ面会に行っていないよ。』と催促してくれた。もちろん性格的に優しいというのが大半だろうが、ルーティン化するのが得意な自閉症特性もあった気がする。(家族)



他県に数週間インターンシップに行く時のこと。行く前日に服を洗濯し浴室内で衣類乾燥をかけて、当日早朝スーツケースに詰めていた。心臓に毛がたくさん生えている。(家族)



18歳になるから小児科ではもう診られないと言われた。本当は小児科は15歳くらいで卒業らしいが、発達の専門医が少ないので継続してくれていたらしい。初めての人や場所が苦手なので、次は精神科になると言われたが不安。お金も月500円では済まなくなるため、「自立支援医療」(48ページ参照)の申請を勧められた(家族)